



日本全国みんなでつくる

サンゴマップ

の取り組み



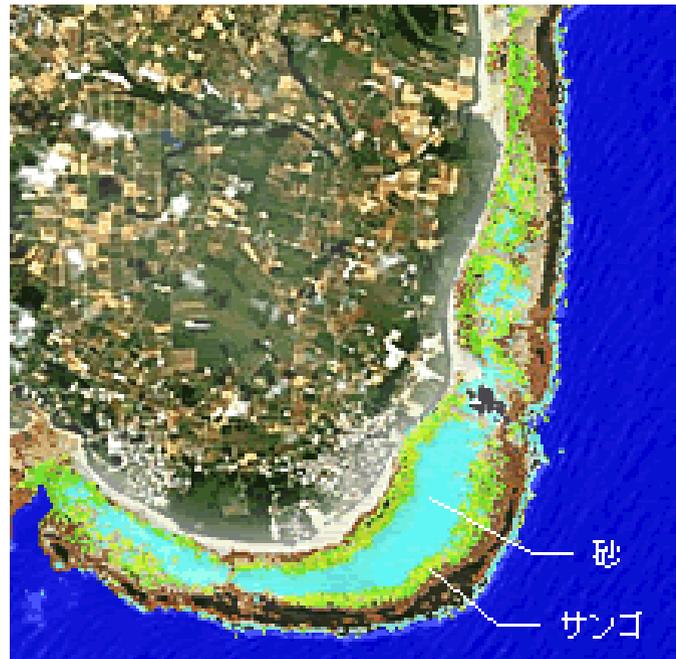
オニード

浪崎直子（NPO法人OWS）

柴田剛（株式会社エアロフォトセンター）、鈴木倫太郎（駒澤大学応用地理研究所）、平手康市・宮良道子（国際サンゴ礁年沖縄ワーキンググループ）、古瀬浩史（自然教育研究センター）、宮本育昌・土川仁（コーラル・ネットワーク）、安村茂樹・町田佳子（WWF ジャパン）、山中康司（NPO法人日本安全潜水教育協会）、山野博哉（国立環境研究所）

サンゴマップとは？

市民からの目撃情報をもとに、日本全国の「サンゴマップ」を作成するプロジェクト



なぜ、いまサンゴマップをつくるのか？

- ・古いサンゴマップしかない
(90～92年・第4回自然環境保全基礎調査)
- ・98年大規模白化など、様々な攪乱を受けたがその後の広域的なサンゴ分布調査はない

衛星などによるサンゴ礁分布図作り

山野博哉(国立環境研究所), 2007

課題

現地情報が不可欠

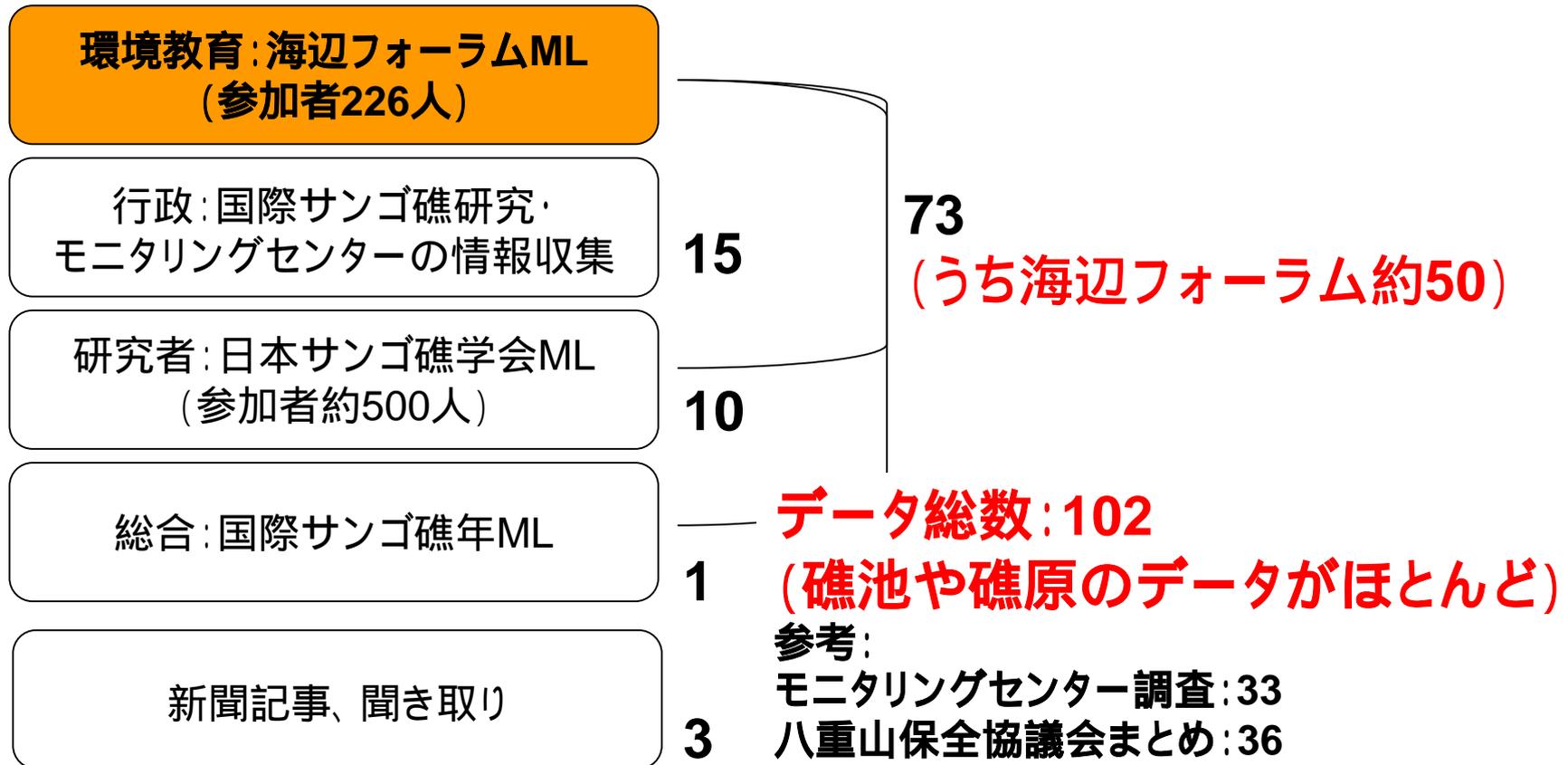


藻類と造礁サンゴの区別が難しい
5m以深は判別できない

どうやってサンゴマップをつくるのか？

市民を巻き込んだ、情報収集ネットワークの構築が重要

2007年夏のサンゴ白化情報の収集から得られたデータ数



引用：日本サンゴ礁学会第10回大会 山野博哉(国立環境研究所)他

サンゴマップ実行委員会設立

今年国際サンゴ礁年 ~ 知ろう・行こう・守ろう ~



ワーキンググループ(WG)

科学者WG
環境教育WG
ダイビングWG
沖縄WG

様々な主体が関わり、

サンゴマップ
実行委員を設立

ミュージック & カルチャーWG



アオシカニコ

サンゴマップの参加方法

- ・参加者は2つのコースから選択
- ・ウェブサイトより、情報提供者の属性、位置情報、サンゴの生息状況、白化の有無、写真を投稿

誰でもできる！

「サンゴがあったよ、なかったよ」コース

1	対象サンゴは？ 探しているサンゴを確認する。	① こんなサンゴを探しています
2	サンゴを見つけた人は写真撮影 カメラを持っていたら、水中の景観とサンゴの写真を撮る。	② 写真の撮り方
3	場所と水深を確認 サンゴのあった(なかった)場所と水深を確認する。	
4	観察情報の投稿 情報を「 サンゴマップに参加する 」から送信する。 ※サンゴがなかった場所も報告できます。	③ 投稿のしかた

できるひとにお願い！

「しっかり底質調査」コース

1	調査項目は？ 記録用紙を印刷して調査項目を確認する。	① 記録用紙
2	底質を調べる 全体(10m×10m位)を見渡し、海底が何で構成されているかを判別し、それらの占める面積の割合を6段階でチェックする。	② 底質について
3	写真撮影 カメラを持っていたら、水中の景観とサンゴの写真を撮る。	③ 写真の撮り方
4	場所と水深を確認 調査をした場所と水深を確認する。	
5	観察情報の投稿 情報を「 サンゴマップに参加する 」から送信する。	④ 投稿のしかた

メディア掲載

テレビ

NHKニュース

新聞

毎日新聞
読売新聞2回

雑誌

「マリンダイビング」

8月号(7月10日発売)12月号(11月10日発売)

「月刊ダイバー」

「月刊みんぱく」9月号

「環境会議2008秋号」

「WWF機関紙10/11月号」

「BSAC TIMES」2回

「LAGOON」(環境省モニタリングセンター)

東京 豊 糸川 長門

アミサンゴの仲間(千代)などが群生する海域を調査する研究者やボランティアダイバーたち(25日、鹿児島県伊佐市宮原の水深15メートル) 一ノ瀬幸雄



サンゴ地図 全国調査

地球温暖化の影響で生息数が激減し、生息域が北上しているサンゴの分布を、初めて全国規模で把握する「サンゴマップ」を作ろうと、国立環境研究所の研究者やダイバーが25日、鹿児島県伊佐(沖繩、西伊豆(静岡)、串本(和歌山)の海に一斉に降り、サンゴの種類や大きさを調べた。同研究所などが実行委員会を作り、7月からホームページでサンゴの目撃情報を募っている。マップは来年3月に完成予定。

サンゴマップ関連イベントの開催

開催日	イベント名	開催場所
3月1日	海辺の環境教育フォーラム2008	兵庫 家島
3月23日	ダイビングフェスティバル	東京 お台場
4月4日	マリンダイビングフェア 「国際サンゴ礁年2008リーダーセミナー」	東京 池袋
3月19日	沖縄説明会	沖縄 那覇
5月22日	関東学生潜水連盟セミナー	東京 新宿
7月4日	第8回東京サンゴカフェ	東京 六本木
7月19日	日本科学未来館 【展示の前で研究者に会おう！】	東京 お台場
10月25/26日	全国一斉みんなで作るサンゴ マップの日	全国

結果

(2008年7月1日～12月9日現在)

データ登録数

213件

情報提供者

99名

ウェブサイトアクセス:

1万266件



HP見たことありますか？

沖縄98件、高緯度からも68件！

(2008年12月9日現在)

沖縄島



高緯度



八重山

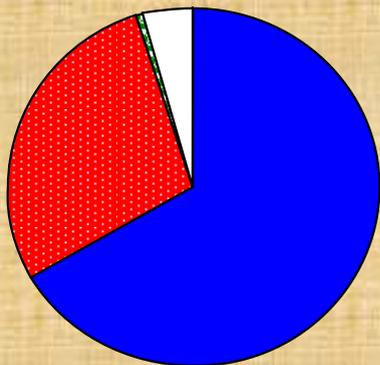


調査方法の集計結果

データ数: 213件

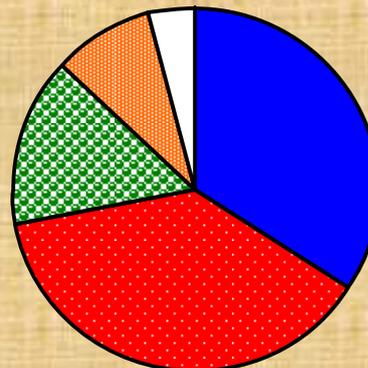
調査方法

(データ数)



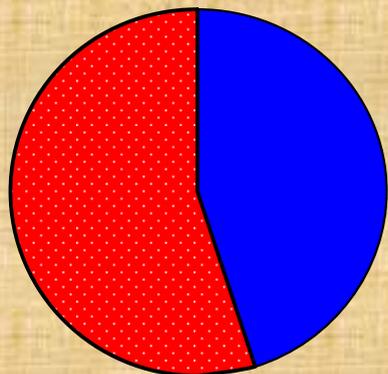
- ダイビング (142)
- スノーケル (61)
- グラスボート (1)
- その他 (9)

水深



- 0 ~ 4.9m (73)
- 5 ~ 9.9m (80)
- 10 ~ 14.9m (32)
- 15 ~ 19.9m (20)
- 20m以上 (8)

参加コース

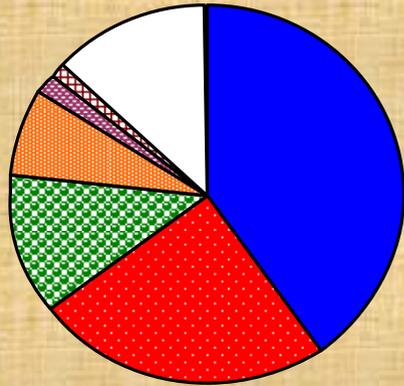


- あつたよ、なかつたよコース (96)
(情報内訳: あつたよ: 93件 なかつたよ: 3件)
- しっかり底質調査コース (117)

情報提供者の属性

データ数: 89件

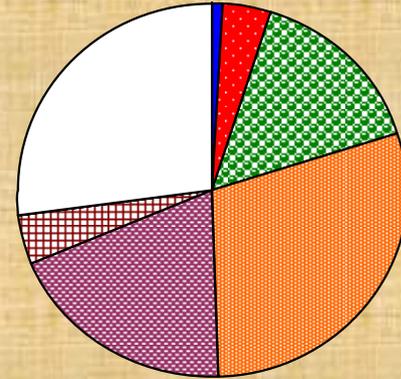
居住地域



(データ数)

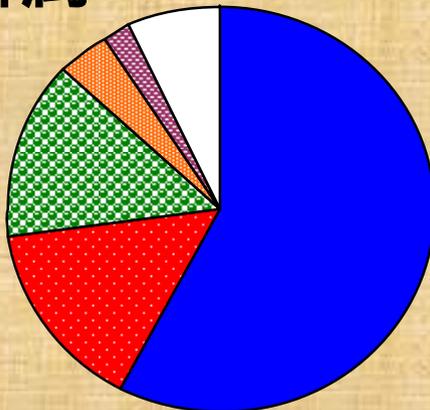
関東	(40)
九州・沖縄	(24)
近畿	(12)
中部	(7)
中国	(2)
四国	(1)
空白	(13)

年齢



9歳以下	(1)
10代	(4)
20代	(15)
30代	(29)
40代	(19)
50代	(4)
60代以上	(0)
空白	(27)

所属

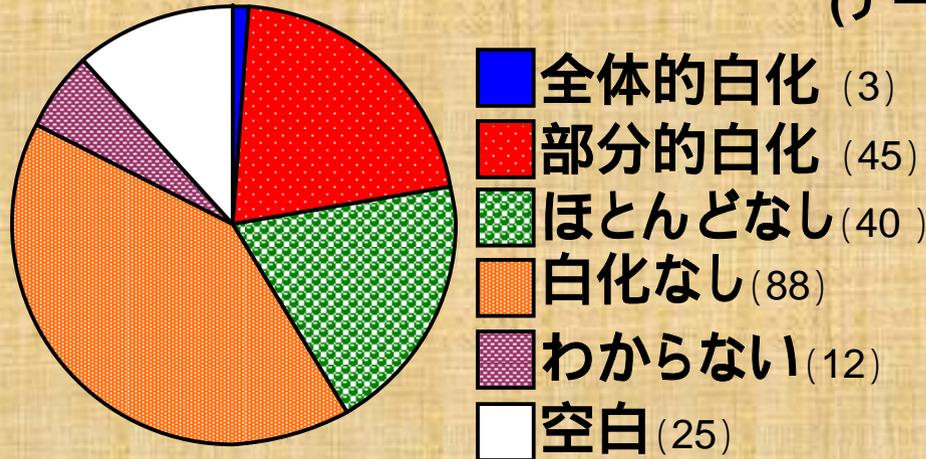


その他一般	(57)
ダイビング事業者	(15)
NPO/NGO	(14)
研究者	(4)
観光業者	(2)
空白	(7)

投稿された2008年の白化情報

白化状況

(データ数)



場所

白化したサンゴの形状

観察日

屋久島 永田浜

テーブル・塊・被覆

2008年8月6日

屋久島 一奏

枝・被覆

2008年8月8日

沖縄県万座コーラル

枝・塊・被覆

2008年6月21日

撮影日:2007年12月 撮影場所:屋久島一湊

今回の成果

様々な立場のネットワークを通じた、データの効率的な収集・フィードバックのシステムが確立された

進行管理
(NPO)

情報提供

市民

普及

ダイバー

(ダイビングWG)

環境教育

(環境教育WG)

沖縄

(沖縄WG)

広報

HP・チラシ作成

(全実行委員)

マスコミ対応

(NPO)

システム構築・資金調達(山野・安村・全員)

研究上での成果と意義

情報の少ない高緯度からも含め、広く情報が集まった

過去のデータと比較して、変化を抽出できる基礎データが集まった

今後の現状把握、白化状況が迅速にわかる

地域性の要因を解明できる可能性がある

課題と今後の展望

課題

データがまだ少ない 目指せ350データ！

サンゴ礁地域の住民、ダイビングショップ、研究者からの協力を得るにはどうすれば…

今後の展望

白化情報の収集としても活用していきたい
市民が参加できる保全アクションの一つとして普及を図っていきたい 例) 沖縄県の協議会などで
モニタリングネットワークへの展開
継続する【仕組み】について議論していきたい